

1 総合職試験（大卒程度試験）「政治・国際・人文区分」の創設等

総合職試験（大卒程度試験）「政治・国際・人文区分」の専門試験は、従来の「政治・国際区分」と同じ科目を出題するコースAと、人文系の科目も出題するコースBとに分ける。新たに設けるコースBの専門試験は以下のとおり。

(1) 専門試験（多肢選択式）

[コースA・B 共通必須問題] 5 題

政治学①～②、国際関係①～②、憲法①～②

[必須問題] 20 題

思想・哲学④、歴史学④、文学・芸術③、人文地理学・文化人類学②、
心理学・教育学・社会学に関する基礎⑦

[選択問題] 30 題中 15 題解答

思想・哲学⑥、歴史学⑥、文学・芸術⑥、人文地理学・文化人類学②、
心理学③、教育学③、社会学④

※ ○内の数字は出題予定数

(2) 専門試験（記述式）

次の6題から2題を選択解答

思想・哲学②、歴史学②、文学・芸術②

※ ○内の数字は出題予定数

※ 総合職試験（院卒者試験）「行政区分」における人文系のコースについても、上記(1)・(2)と同様の科目を選択することが可能。

2 試験問題の出題の見直し

① 基礎能力試験の見直し

春の大卒程度試験において基礎能力試験の出題数を 40 題（知能分野：27 題、知識分野：13 題）から 30 題（知能分野：24 題、知識分野：6 題）に削減する。あわせて、知識分野については単に知識を問うような出題を避けて時事問題を中心とし、普段から社会情勢等に関心を持っていれば対応できるような内容とする。

また、高卒程度試験を含む全ての基礎能力試験の知識分野において「情報」分野の問題を出題する。

② 総合職試験の専門試験（記述式）の解答題数削減

総合職試験（院卒者試験）「行政区分」並びに総合職試験（大卒程度試験）「政治・国際・人文区分」、「法律区分」及び「経済区分」の専門試験（記述式）について、解答題数を 3 題から 2 題にし、試験準備の負担感を軽減する。

※ 出題数や解答題数の削減に伴って解答時間も下記のとおり短縮

- ・ 春の大卒程度試験の基礎能力試験

現 行：総合職 3 時間 一般職・専門職 2 時間 20 分

見直し後：総合職 2 時間 20 分 一般職・専門職 1 時間 50 分

- ・ 上記②の各区分の専門試験（記述式）

現 行：4 時間

見直し後：3 時間

これに併せ、他の全ての区分の専門試験（記述式）の試験時間も 3 時間 30 分から 3 時間に短縮

※ 上記①の見直しに伴って、全ての試験において知能分野を含む基礎能力試験の出題構成を変更

（参考）今回の採用試験の見直しに係る改正に合わせて行った人事院規則の改正

民間との人材交流が重要であるとの姿勢をより明確に示すため、本省課長相当の官職への任用に当たって重視する出向経験として、民間企業での勤務経験を人事院規則で明記する改正を行った。

令和4年「公務員人事管理に関する報告」（抄）

社会環境の急速な変化に的確に対応できる能力を有する人材を確保していくためには、公務部内における人材育成だけでなく、公務と民間との間の人材の流動性を高め、民間の知見を積極的に公務に取り入れていくことが重要である。